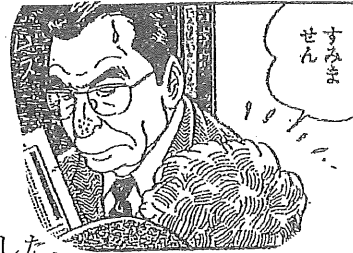


1学期も無事に終業式を迎え、生徒達は明日からの夏休みに心躍らせていることと思います。45日間という長い夏休みを使って、自分を見つめ直し2学期の目標を持てるよう有意義に過ごして欲しいと思います。今月は、学年毎に教師同士で毎週の道徳の時間を交流しながら行いました。少しでも、生徒が考えやすく、興味が持てる内容にしたいと考えたからです。2学期以降も、生徒達の意見や感想を基に、より深く考えることができる道徳の時間を創っていきたいと思います。今回も、各学年の道徳の時間の生徒感想文を紹介します。ご家庭での話題にさせていただけると幸いです。

～1年生～
「島耕作 ～ある朝の出来事～」：テーマ…公徳心

(あらすじ)
朝の通勤ラッシュの車内での出来事。老婦人がぶつかってしまい「すみません」と謝っても、ぶすっとして応答すらないサラリーマン。自分は席に座って新聞を読んでいるのに、しんどそうなその老婦人に席を譲る気配すらない。見ていた島耕作は、業を煮やし「できましたら、席を譲ってあげていただけないでしょうか・・・」と言った。すると、サラリーマンは「冗談じゃない！私だって疲れているんだ。2時間しか寝てないのに、人の事情も知らんで勝手なことを言わんでくれ！」と反論しました。さて、みんなはどう考える？
(漫画「課長 島耕作」をもとにした教材です。)

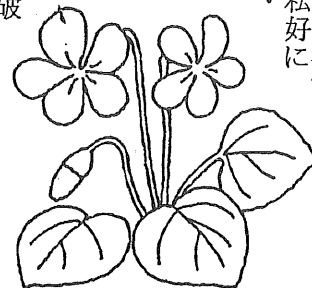


～生徒感想～
・私は、島さんが正しいと思います。電車の中では普通、年寄りの方に席を譲るのが常識なのに、このサラリーマンは自分の意見ばかりで、人の気持ちも考えない最低な人だと思いました。そういう人がいるから、周りの人にも迷惑がかかるのだと思いました。
・ぼくは、サラリーマンも島耕作もどちらも悪い所があると思います。島耕作は少し怒りすぎだと思います。サラリーマンは、言われる前に自分から気づいてかわってあげたら良かったと思います。ぼくは、自分で気づいてかわってあげられる人になりたいです。
・前、電車に乗っていた時、自分が座っていて前に立っていたおじいさんに席をかわったことがありました。でも、この話は知らない人に、知らない老人のために席を譲ってくださいと言わなければならないから、自分が席をかわるより、ずっと勇気があることだと思いました。

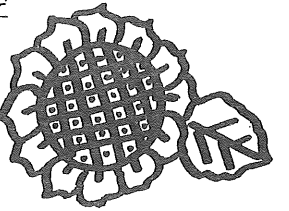
～2年生～
「ネパールのビール」：テーマ…弱さの克服

(あらすじ)
カメラマンの吉田直哉さんがネパールのドラカ村を訪れた時の話です。1日の撮影が終わり、思わず「ビールが飲みたい」と言った言葉を聞きつけ、村の少年チェトリ君は、1時間半はかかる峠を越えビールを買いに行ってくれました。翌日も、チェトリ君の申し出につき、多めのお金を渡してビールをたのんでします。しかし、彼は戻ってこない。3日が過ぎ、泥まみれでヨレヨレの格好でチェトリ君が帰ってきました。「一番近い村へ行ったが、3本しかなく、そこから峠を4つ越えて、合計10本買った。しかし、転んで3本割ってしまった。」とベソをかきながら、その破片を全部出して見せ、釣り銭を出しました。吉田さんは、チェトリ君の肩を抱き、泣きました。

～生徒感想～
・私は、チェトリ君と作者の关系到びっくりしました。会って間もない人に遠くまで行って願いを叶えてあげるなんて、すごく優しいなと思いました。作者もきつと帰って来てくれるだろうと信じて…。2人の関係に感動しました。チェトリ君の優しさは、自分が苦勞している分、人に幸せをあげようとする気持ちが表れているのだと思いました。少しでも疑ってしまった作者の悔しさ、自分への苛立ち、それにチェトリ君に出会えた幸せに涙を流したのだと思いました。



・もし、逆の立場なら自分から買いに行くなんて日本人は言わないと思うし、行ったとしても、3本しかなかった時は、その3本を買って帰ってくると思う。ドラカ村の人達は、ガスや水道、電気がないから、お金や物がどれだけ大事かを分かっていて、だからこそビールだけに子供1人が3日もかけて買って帰ってきたんだと思う。日本にはガス、水道、電気はあるけど、みんなにこんな思いやりの気持ちは持っていないんじゃないかと思った。

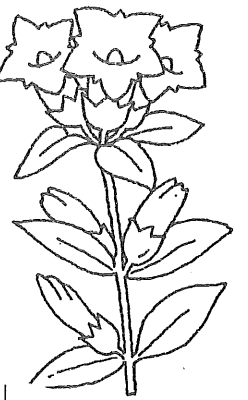


・この話を読んで、最初はビールを買いに行ってくれていたのは金めあてだったのか・・・と少しがっかりしました。でも、チェトリ君はそんな悪い人じゃなくて、本当に親切な人だと思いました。日本人の私だったら、買いに行ったとしてもなかったら3本だけ買って、「無かった」と言うと思います。でも、チェトリ君はビールのために、4つも山を越えて買って来たのは裕福な人にはない何かがあるんだと思います。「3本割ってしまった。」のところで、3日も歩いて疲れ切っていたんだと思います。私も、人のためにそこまで頑張れる人になりたいです。

～3年生～
「5つの人たちに感謝せよ」：テーマ…感謝

(あらすじ)
2年前に生徒達が体育をお世話になった中村先生の学級通信の内容です。3年生を持つたびに、中学校生活最後の大会前に送っておられたメッセージ。3年生が、これまで積み上げてきた部活動の技術や思いの全てを託して、勝利を目指す事への応援。しかし、先生はその気持ちだけでなく、共に過ごしたチームメート、対戦する相手チームの敵、自分を日々応援してくださった周りの人々、試合を成り立たせてくださる審判の人たち、そして、試合やコンクールの会場を会場たらしめてくださっている人たち……。自分たちが、精一杯力が出し切れるのも、こうした人たちの支えのおかげであることを忘れずに、最後の大会やコンクールに臨んで欲しいという熱いメッセージです。

～生徒感想～
・私は、とても感動した。もう城久まで2週間ほどしかなくて、今、自分はとてもとても焦っている。チームの仲間もライバルだから、やっぱり最後の大会は出たいから。そんな事しか考えてなくて…。でも、この文章を読んで、改めていろんな感謝、ありがたさを考えた。仲間って、大切な仲間でもあるが、ライバルでもあって。でも、試合ってというのは「チーム」として戦うから1つにならなければならないし、すごく難しいけど、仲間がいるってすごくありがたいと思った。府下大会の時、みんなが必死で戦ってくれた。そして、勝った。ここまで、苦しいこともみんなで乗り越えたから、耐えたから今、勝った。ほんま、「みんな、ありがとう。」って思った。



・自分の周りには自分の事を応援してくれる人たちがたくさんいる。近所の人たちには「がんばってな。」とか「最後の大会やろ？応援してるしな。」とか、たくさんの言葉をもらう。それがとても自分の勇気になっていて、くじけそうな時もその人達の期待を裏切っては行けないと思って、自分を立て直す。そんな人たちに感謝しないといけないと思った。でも、私がいちばん感謝しているのはチームです。私のチームは、すごくみんなのために動けるチームです。私がうまくいかない時も「どんまい！」とか「次がんばろ！」「大丈夫！」とかいろんな声をかけてくれます。私は、本当にチームのメンバーに支えられているなあ実感します。最後の大会まで、残り少ないけどチームに感謝、応援してくれる人に感謝、そして、最後の1球を大事にチーム一丸となって試合に臨みたいと思います。

・私の入っているクラブではコンクールがありません。私は絵というものは、初めは正直好きではなかった。上手くなりたいから入った…程度だった。でも、私はある時、心に決めた。先輩のようなすごい絵を描きたい。描いて、みんなに見せたいと思ったのです。それから私は少しずつだったけど、絵が描けるようになった。絵は自分の感情がそのまま絵に表れると言われていた。私の最後の絵……。私はいったいどういう気持ちで絵に表せているだろう。これが最後だと思うともっと先輩に絵の事を聞きたかったなあと思った。私は、美術部の先輩として後輩に見せられるような、みんなに見せられるような、そういう絵を描いて終わりたいと思っている。